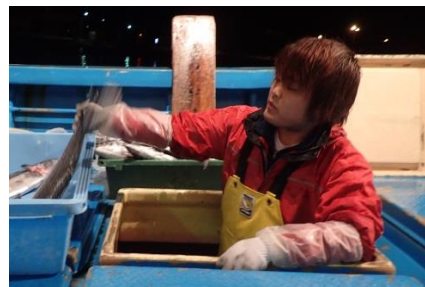


所 属 鳥取県漁業協同組合（酒津支所）

氏 名 うえじま けんたろう  
植 嶋 健 太 郎 （24 歳）

船 名 うえしまる  
植 島 丸 8.5 トン

漁業種類 刺網、釣り



～将来が楽しみな酒津期待の星～

酒津で1番の若手漁師である、植嶋さん。植嶋家は漁師の家系であり、小さな頃からその手伝いをして育ったが、意外にも初職は遺跡の調査員だったとか。尊敬する祖父が亡くなったことがきっかけで、その遺志を継ぎ、漁師になろうと思ったそうだ。

生まれ育った酒津の地が大好きで、「浜の雰囲気、人の優しさ、すべてが自分にとって最高に心地良い」と満面の笑み。そんな植嶋さんだが、「大漁の時、集荷までに全ての魚を網外しできないのがつらい」と語る。もちろん、網に残った魚は売れない。魚が獲れないと叫ばれるご時世にあって、確かな実力を持つなよりの証明だろう。

彼の乗る植島丸は、父親と叔父との3人船。「まずは親父に追いつきたい」と将来の目標を語り、「まだまだけど、漁や操舵を任せてもらえるようになってきた」とはにかむ。県下でも有数の漁師である父親とともに、日々海に向かう。漁師の心が脈々と受け継がれている植島丸を駆る彼に、浜の皆が期待を寄せている。

～漁のモチベーションは…～

話を進めていくと、クルマ好きなことが発覚。ちょうど取材の時期に、スバル・WRXの納車待ちという状況であった。WRXといえば、クルマ好き垂涎の車両。家族に内緒で購入したというその車両が、現在は仕事のモチベーションとのこと。クルマも思い切りの良さも、うらやましい限りです。

（文責：徳安 理敬）